

遣英艦隊報告第一回

明治三十二年三月十九日(水)

三月十九日(水)

司令官



午前十時參謀海軍少佐財部彪同海軍大尉中島資明少佐  
と横須賀軍港に於て軍艦浅間を乗組、將旗を揚ぐ直ニ井  
上横須賀鎮守府司令長官に向て十七日、礼砲を發し成規各  
砲を受り

參謀



本官ハ一昨十七日常備艦隊司令官に補せし昨日前職(輝令長)  
ノ事務を引き継了し本日赴任ス是レより先キ三月十五日軍艦  
浅間及高砂ノ兩艦ハ豫隊備艦より新ニ常備艦隊ニ  
編入せラルルハト同時ニ海軍大臣ハ常備艦隊司令長官ニ内  
命スルトヨリ兩艦ヲ以テ英國皇帝皇后兩陛下戴冠式ニ  
參列ノ為メ派遣スルノ準備、著手セシム當時浅間ハ已横  
須賀軍港ニ在リ無線電信機取付工事其他二三ノ手入

遣英艦隊

報告

0004

等ヲ除ケハ艦体及兵器ヨリ諸附属物等ニ至ル迄殆ント完備  
ノ状態ニアリル後施為ヲ要セルハ乗員ノ補填炭水雷品  
ノ積込ニ空放薬ノ増加（往返ノ航途ニ觀兵式等ニ於テ要スハ空放薬  
數ハ約一萬發ト豫定シ積込ヨリ但シ内四千  
ハ百發ハ機用）満艦節火ノ準備乃至艦内外ノ修飾等ニ  
過キサリシ又高砂ハ兵軍港ニ在リ機関ノ分解手入舵機ノ  
手入其ノ他小修理等ニ從事シツマツレシ以テ速クシテ終了シ試  
運轉ヲ終ル次第横須賀港ニ面艦シ無線電信機取付  
艦体黒色ニ塗摺方其他諸般ノ準備ニ取掛ルヘキコトヲ電  
命セラレタリ是ニ於テ同艦ハ十九日修理手入等ヲ終リ直ニ拔  
錨シテ横須賀ニ向ヘリ

其日海兵機密第94號ノ四ヲ以テ左ノ如ク海軍總務長  
官ヨリ常備艦隊司令長官ニ通牒アリ兩艦ノ英國派遣及  
其ノ準備等ニ関シテハ直接本職ヨリ海軍大臣ニ申請若クハ

0005

報告スルコトナレリ

今秋皇禮隊同中船淺沼守禮方がシ大不列顛國へ派  
遣セシメラルヘキ旨ノ事右に於て六月下旬其方よりセラルキ  
同國皇帝陛下戴冠式祝賀ノ旨又ハ其方より送ル所ナリハ  
中付ノ葉にて明治二十二年達第百五十號ノ主旨ニ依  
リ便回上送分キ禮隊首領指揮夜ヨリテ直橋海  
軍大臣ニ申渡シテ報告セラル梯法部印シテ成  
付申送也

明治二十二年三月十九日

海軍總務長官高松 大

兼佐藤 丹次 南田秀松殿

三月二十日(木)

三月二十一日(金)

本日午后高砂横濱賀入港ス

三月二十二日(土)

三月二十三日(日)

此日常備艦隊司令長官ヨリ本職へ授与し係命合左ノ如シ

来古月下旬奉行セラルヘキ大不列顛國皇帝陛下戴冠式

祝賀ノ為メ軍艦淺沼及高砂ヲ回國へ派遣セシメラルヘキ旨

ニ付談件ノ要シテハ明治三十三年達第百五十七號ニ依リ並橋

貴官ヨリ海軍大臣ニ申請若クハ報告シ同時し其旨ヲ本隊

ニ報告ス

三月二十四日(月)

三月二十五日(火)

三月二十六日(水)

此日西艦長に左訓令ヲ出ス

一、其艦に於テ目下施行中ノ諸工事手入及航海準備等ヲ完結セシメ、便宜播演洗へ回艦スヘシ

二、播演洗面艦ノ機ヲ利用シ自差測定、出入洗操練、溺者救助操練、防火操練及防水操練等ヲ施行スヘシ

三、來四月五日以前に於テ便宜果員各自に四六時間宛ノ臨時上陸ヲ許スヘシ

四、播演洗面艦セルトスル日時ハ可成速ニ之ヲ豫定シテ報告スヘシ

三月二十七日(木)

三

0008

三月二十八日(金)

三月二十九日(土)

彰仁親王殿下並離宮に於テ催サレシ園遊會ハ本職幕僚ル  
西艦長以下西艦ノ上長官數名ヲ召サレ各參會特ニ引見セラル  
常備艦隊司令長官ノ電命ニ依リ本日軍艦高砂本職ノ諸

又此日午後一時海軍大臣ト共ニ英國公使「サアノロト」マント  
「ド」ノ午餐ニ招待セシメ臨ム

0009

0010

三月二十八日(金)

三月二十九日(土)

彰仁親王殿下蒞離宮に於て催サレシ園遊會へ本職、幕僚等  
西艦長以下西艦ノ上長官数名ヲ召サレ各參會特ニ引見セラル  
常備艦隊司令長官ノ電命ニ依リ本日軍艦高砂本職ノ指  
揮下に入ル

本自艦本第六ノ八跡ヲ以テ麾下西艦英國へ航海中ニ要スル  
石炭ノ購買ハ左記ノ手續ニ依リ購買契約シ其ノ代價支払  
方ハ經理向ヘ請求スル件有馬艦政本部長村上經理向長  
連名ヲ以テ商議シ来リタル付之ニ応シテリ

英國へ派遣軍艦航海中石炭購買ニ関スル手續

一、英國へ派遣軍艦左、各寄港地に於テ石炭ヲ購入スルトキハ別記雜形ニ準

0009

0010

之約定各ヲ徴シテ購入シ現品ヲ領收シテキ直ニ電報(以テ電報ハ秘密  
ト電報(例依)測)ヲ以テ其數量代價等ヲ艦政本部長へ報告上該約定各  
ニ本艦機関長ノ右炭領收書ヲ添付シ該代價ノ仕松方ヲ經理局へ  
請ホスヘシ

新嘉坡 コロンボ 亞丁 ポートセツト マルタ

二 前項ノ各寄港地ニ於テ別記ノ通ノ三井物産合名會社ノ支店若クハ  
代表人ヨリ右炭ヲ供給スルヲ以テ該寄港地へ回航スル以前ノ其ノ購  
入スル右炭ノ噸數及時日積入手配等ヲ通牒スルヲ西メス

但シ搭載量準備ヲナシテ右炭ノ數量ニ不正ノ慮アルカ又ハ供給ス  
キ右炭ノ品位ニテ寄港地ニ現在スル最上等ノ右炭ト甚ニ差  
異セルモノト認定スルトキ他ノ供給者ヨリ購入スルモノト得

此ノ場合ニ於テハ搭載準備等ノ為メ生シル費用ハ弁償スル  
ニ及ハサルモノトス

石炭賣上約定書

一 何炭 何噸 一噸日本貨幣何円何十割

此代價金何円

右何月何日軍艦何々前此價格より賣上り可申夫此代金  
ハ日本海軍省に於て在日本三井物産合名会社へは任拂  
下事

右之通約定仕儀也

年月日 納入 何 某

軍艦何々宛

電報文例

(某ハ電信宛名之用ニハシ)

石炭一〇〇〇 某一五、〇〇〇 三井物産会社 渡ル

浅間

0012

石炭直販見積書

寄港地	炭種	石炭噸價	供給者	電信宛名
新嘉坡	田四層塊炭又同炭	一二五〇〇	Mitsui Bussan Kaisha	Mitsui Singapore
コニボ	英炭	一五〇〇〇	Melange Straits & Co.	Nassia Rotterdam
亞丁	令	一七〇〇〇	Sheik Thomas & Co.	Thomas Adams
ホム	令	一二〇〇〇	Moems & Co.	Moems Rotterdam
マル	令	一〇七五〇	G. J. Molken & Sons	Molken Rotterdam

新嘉坡は同一地棧橋にて積込直販にて撥並に貸付申渡  
可仕其若し持橋の掟留セザルトハ船費用ハ實費ヲ右直販  
以外之申請可仕候

新嘉坡以外ノ各港直販ニ撥並ニ貸付有ス

右直販ニ東京ノ於テ先立可被下美事

右直販ニ込借給仕度由用被仰付度有也

明治三十五年二月二十日

三井物産合名會社

三月三十日(日)

三月三十一日(月)

本職、幕僚、兩艦長及兩艦乗組ノ上長官數名海軍大臣ノ  
午餐ヲ招カレ各參會ス總理大臣、外務大臣、陸軍大臣、  
英國公使、英艦エングレヴィン艦長及其ノ乗組士官數名モ亦  
列席セリ

四月一日(火)

海軍大臣ヨリ左ノ命令ヲ受ク

軍艦淺間、高砂ヲ大不列顛國へ派遣セシメラル、昔本  
日當中備艦隊司令長官ハ傳達セリ就テ、貴官ハ諸準  
備ヲ整ヘ、該二艦ヲ率ヒ本月十日迄ニ本邦ヲ出發ス

0014

明治三十五年四月一日

海軍大臣田力爵山本権兵衛

常備艦隊司令官伊集院五郎殿

右ノ命令ニ基キ二艦ノ横濱出發期日ヲ四月七日午後一時ト定メ  
テ報告セリ又航海豫定表ヲ調製スルコト左ノ如シ

英國海軍大臣

今回ノ英國派遣ノ員ニ於テ准士官以上服装手當ヲ給ラセラル  
共額ハ左ノ如シ

一 将官 二百五十四 一 上長官 一百五十四

一 士官及高中文官 一百四 一 准士官 五十四

午後六時英國軍艦「エンゲイオン」艦長及其乗員九人英  
國公使館員ニテ東京紅葉館ニ於テ待テ之ヲ迎候ス

0015

0016

明治三十五年四月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

常備艦隊司令官伊集院五郎殿

右ノ命令ニ基キ二艦ノ横濱出發期日ヲ四月七日午後一時ト定メ之  
ヲ報告セリ又航海豫定表ヲ調製スルコト左ノ如シ

英國行航海豫定表

地名	著月日	發月日	哩程	航行日數	泊日數	記事
横濱		四月七日 午後一時				
新嘉坡	四月二十日	四月二十三日	二千九百九哩	十二日	十二日	
コロンボ	四月三十日	五月二日	一千六百哩	六日	六日	
スエズ	五月十六日	五月十六日	三千四百哩	十四日	十四日	
ポトセッド	五月十七日	五月十九日	八十七哩	二日	二日	運河入り 定直之水先 中用有 停泊
マルタ	五月二十三日	五月二十六日	九百六十哩	四日	四日	

六

0015

0016

プリマツ六日四日

二千七百八日十五時

計

一万千七百四十七日廿時

此日本職中島參謀ヲ從ヘ 皇太子殿下ヲ葉山御用邸ニ  
伺候ス

四月二日(水)

此日ノ日附ニ角田常備艦隊司令長官ヨリ左ノ訓令並  
訓示アリ

伊集院常備艦隊司令官ニ訓令

明治三十五年四月二日  
元政波瀾艦隊

一 貴官ハ其筋ノ訓令ニ基テ淺洲高砂ニ艦ヲ率ヒ英國  
ニ向ケ出發スヘシ

二 英國派遣中貴官ノ執可キ任務ニ對シテ直接其筋

訓令ヲ受クハシ

三、出發日ヲ確定スルハ報告スハシ

四、出發前便宜乗員ニ四十八時間ノ休暇ヲ与フハシ

角由常備艦隊司令長官

伊集院常備艦隊司令官ハ訓示

會面麾下淺間、高砂ノ二艦ヲ貴官ノ指揮下ニ屬シ英國白王帝  
陛下御戴冠式ニ參列ノ爲メ分遣セラルルニ就テハ貴官ハ兩艦  
長以下ヲ能ク上旨ヲ奉體シ帝國ヲ代表シテ參列ノ禮意ヲ  
表彰スルニ欽クルカラレムコト言フヲ俟タス又惟フニ以行一艦ノ外容  
動作ヨリ一率ノ態度行爲ニ至ル迄皆帝國海軍武カノ標準ナト  
シテ列國ノ環視ストコロナレハ兩艦員上下ハ終始心ヲ一ニ軍紀  
風紀ハ勿論日常ノ行動作業等ニ於テ毎ニ他列國ノ艦船ニ優

七

0018

勝ルヲ力メテ帝國海軍ノ威武ノ表明ニ列國ヲシテ畏敬ノ  
感念ヲ發作セシムルヲ要ス時方ニ向暑ノ季ニ際シ炎熱ノ地  
ヲ經テ長途遠航スルノ勞ヲ多トスト同時ニ各員皆能ク  
其ノ衛生ニ留意シ遣英ノ任務ヲ全フレテ歸朝セシコトヲ喜ム  
明治三十五年四月二日於波旗艦初瀬

常備艦隊司令長官 角田秀松

本職海防機密身九四號ノ二海軍大臣ノ命令並ニ旗秘身九五  
號ノ二常備艦隊司令長官ノ訓令ニ基キ本日左ノ命令ヲ發ス

遣英艦隊命令第一

明治三十五年四月二日  
於橫濱賀軍港旗艦淺間

一、軍艦淺間高砂ヲ大不列顛國へ派遣センメラルル旨傳達セ  
ラル依テ本艦隊四月七日午後一時ヲ期シ橫濱港ヲ出帆セ  
ントス兩艦ハ同日正午迄迄ニ成ル諸般ノ準備ヲ完整ニスヘシ

0019

二、艦隊ノ速力ハ原速力十一節即微速力四節トス

三、点火スヘキ汽鐘ノ数及点火ノ時刻等ハ各艦長適宜ニシテ

定ムル

本日及四日ニ分ケ本職兩艦長ヲ始メ兩艦乗組ノ高等官ニ拜謁  
并賢所參拜被仰付准士官艦下士ニ賢所參拜ヲ被仰付

四月三日(木)

午前英國公使サー、クロード、マクドナルト軍艦「エンガシオン」其ノ  
旗章ヲ掲ケ入港シ来リ名ニ付本職之ヲ訪問ス退艦ニ際シ礼砲  
十五発ヲ受ケタリ本件ハ當時「ニシ」ニテ報告セリ

四月四日(金)

本日正午十二時本職并兩艦員中左記ノ諸官ハ御陪食ヲ被仰  
付タリ

軍艦淺間乗員

八

0020

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

海軍機関中監	海軍中佐	海軍大佐	軍船高砂乗員	全	全	全	海軍少佐	海軍主計中監	海軍々医中監	海軍機関中監	海軍中佐	海軍大佐
岡本鷹雄	上泉徳彌	吉松茂太郎		高木七太郎	子爵小笠原長生	大澤喜七郎	上村經吉	末森廉忠助	戸祭文造	関重忠	宮地貞辰	中尾雄

海軍少佐

今

海軍少監

森越太郎

廣瀬弘毅

浅井勝也助

常備艦隊參謀海軍少佐 財部 彪

本日海軍大臣ヨリ左ノ傳達アリ西艦乗組ノ士官以下ハ特別ノ

御恩召ヲ以テ各酒肴料ヲ賜ル

今般大不列顛國皇帝皇位及陛下戴冠式外亦ノ

派遣ノ中禮儀尚ニ多砂乗組ノ士及同相者以下ハ

恩召ヲ以テ特ニ酒肴料ヲ賜ヒラル、昔行儀ノ海

陸沙法ノ立寄系ハ及及傳達也

明治十五年四月四日

九

0022

海軍大臣男爵山本權兵衛

兼俊統侍下付伊集本内五郎殿

(外感)

今般大不列顛國皇帝皇后兩陛下戴冠式參列外  
派遣之軍艦淺間高砂兼組士官同相當官以下  
思召之以下特之酒肴料下賜候事

酒肴料

一金參百七拾參圓貳拾五錢

内

淺間高砂兩艦兼組

金四拾八圓

士官同相當官四十八人

但壹人并金壹圓

金百拾六圓

准士官并下士貳百參拾貳人

四月五日(土)

但走人三金五拾錢  
金貳百九圓貳拾五錢 兵卒傭人八百參拾七人

但壹人三金貳拾五錢

午前九時淺間横濱向々横濱賀ヲ發ス高砂亦饒テ出港ス淺  
間先劍崎冲迄出テ高砂ハ同時ニ品川冲迄航進ニ相互無誤  
電信機ハ試験ヲ為ス

此日兩艦共ニ廿六日本職ノ与ヘル訓令ニ基キ行々諸操  
練ヲ施行シ午後四時横濱防波堤ノ外ニ碇泊ス在泊英國  
軍艦「エンヂェル」ヨリ十五發ノ礼砲ヲ為セル并成規通り答砲ス  
本白海軍大臣ハ左記ノ如キ慰勞ノ書簡ヲ惠投セラシ又清酒  
五樽ヲ本職始メ兩艦ノ乗員一同ニ寄贈セラレシリ  
拜怒陸士々被大不列顛國皇皇帝皇太后陛下

+

戴冠式ハ兵列ヲ爲メ午種淺曾及ニテ御ヲ派ませラレハ  
國中ノ方々於此境ハカシク帝國海軍史上ニ大  
光彩ヲ添ハスモノナリ様々ヲ念ヒテ大臣ノ最モ光  
榮トスル要ニモシムル所ナリ茲ニ此種ノ御禮ニ  
諸君同爲邦家自出シテ之を發表シテ以テ帝  
國ノ光榮ノ表揚セラレシトシ大臣ノ切ニ申シ  
祝意ヲ表シテ之を敬重ス

明治三十五年四月二十日

山本海軍大臣

午種淺曾

伊集院常陸守

四月六日(日)

遠洋航海ノ準備完成ス

函艦遣英ノ準備トシテ本職ニ於テ特ニ取扱ヒ海軍大臣ノ認

許ヲ得ル件左ノ如シ

- (一) 礼砲装薬増額ノ件并照準秘音吉用山銃備付ノ件
- (二) 満艦飾火用トシテ陸用電信線并白熱燈供給ノ件
- (三) 夏服略帽汚損甚メキモノニ限リ臨時引換ノ件
- (四) 新聞雜誌購入ノ件
- (五) 司令官幕僚附給仕一名増加ノ件

又横須賀兵兩鎮守府司令長官ニ協議シテ承諾ヲ得ル件  
ハ左ノ如シ

航海中下士半進級ノ結果トシテ生スル定員外下士亦上級者

ヲ以テ下級者補充ノ件

又左ノ八名ハ海軍大臣ノ命ニ依リ艦隊便乗ヲ許シ兩艦ニ配

十一

0026

果ス

浅間

陸軍砲兵大尉 東 乙彦  
東京朝新聞社員 村井啓次郎  
會社員 高須精一

陸軍歩兵少佐 西川虎次郎  
陸軍砲兵大尉 土方久路

高砂

全  
代議士 松原積之助  
西原清東  
中央新聞社員 玉木勲夫

午後一時本職の函艦長、財部、中島、西參謀、戸祭、浅間、軍医  
長ヲ率ヒ英艦「コンチネン」ニ赴キ午餐、郷食、  
公使「サー、クロード、マクドナルト」館員ニ名ヲ率ヒ亦也ニ臨ミ款待甚  
厚キヲ感ヒリ宴終リテ英國公使ハ同艦々長ヲ伴ヒ來テ本職

ヲ訪フ退艦之際ニ礼砲十五發ヲ放テリ

四月七日(月)

有栖川宮殿下特ニ皇族附武官ヲ遣サレ令旨御物及ヒ  
酒肴料金二百五十圓ヲ賜ハル

午前土時海軍大臣ハ齋藤總務長官有馬艦政本部長官原楨

関總監及其他ノ諸將校ヲ伴ヒ來艦淺向乗但ノ准士官以上并高砂艦

長副長機関長水雷長航海長及砲術長ヲ旗艦ニ集メ極メテ懇篤ナ

ル訓言ヲ垂レ併セテ發航ヲ送ラレ之ニ次キ桂總理大臣以下諸大臣

(内務大臣病氣)河村海軍中將、神奈川縣知事等來禮シ等ニテ兩艦

ノ發程ヲ送ラレ時已ニ正午ニ及ヒ之ヲ以テ艦内ニ立食ノ小宴ヲ張リ聊

カ祖道ノ意ヲ序ス其年杯三回總理大臣ハ海軍ノ隆盛ヲ祝シ海

軍大臣ハ本職以下兩艦乗員ノ健康ヲ祈ラレ河村海軍中將ハ今昔ノ

海軍ノ對照頗感感慨堪ヘルモ如ク壯快ナル言流以テ兩艦ノ出航

ヲ餞セラル

午後一時近ツキ来送ノ諸官退艦ト付直々ト拔錨出港ヲ命シ渡英ノ途  
ニ上ル此日朝来雨降り加フルニ颯々風ヲ以テレ天候頗ル陰垂心ナリ横濱  
水雷艇隊(四五三ノ一五号ニ隻)比雨ノ衝キ横濱ニ至リ兩艦ヲ送テ横  
須賀沖ニ至リ是ニ於テ介袖ス風雨尚引儀キ其ノ孰カノ遅セリ

四月八日(火)

天明ニ及ヒ天氣漸次平靜ニ復セリ以後海上ノ出来事兩艦提出ノ航海  
記事詳ク尤以ノ之ヲ略ス午後時九州山沖海橋沖ヲ航過シ左信号ヲおモリ  
今為ス信号ヲ筆記シテ海軍省ニ電報セヨ大臣ノ送別厚意ヲ

謝ス天候恢復航海都合好シ總理大臣等ニモ宜シク

而シテ海橋ヨリ次ノ信号ヲ得「汝好航海ヲ希望ス天氣驟報西風晴融レ

四月九日(水)

左記口達覺畫第ニ歸ヲ飛シ艦長以下ニ訓示ストロアリ

口 達 覺 書

淺間高砂西艦果組諸官ニ告リ

今ヤ東西西洋ニ於ケル西海國ハ東洋平和ノ為メニ相握手ニ從  
テ我海軍ノ任務ハ愈々重且ツ大ナルニ至レリ而シテ談同盟ノ成  
ルヤ

陛下ハ辱クモ特ニ我海軍ノ振興ニ睿慮ヲ注カセラレ

今ヤ極東ニ於ケル平和ヲ維持スル為メ日英叔約茲ニ成リ海

軍ノ任務益々重ク加ヘタリ御等其レ努力黽勉盡ス所アレ

ト勅語ヲ賜ヘリ任ニ海軍ニ在ルモノ誰カ感泣シテ醒上旨ニ違ハサフ

シコトヲ期セサルモノアラシヤ

今面英國皇帝皇后両陛下戴冠式ヲ舉行セラルシ以テ淺  
間高砂ニ艦特ニ撰ハレテ參列ノ為メ分遣セラル本官迄キヲ本  
艦隊ノ司令官ニ受ケ諸子ト共ニ行シ得ルハ最モ幸榮トス

ルトコロニシテ茲ニ諸子ノ光榮ヲ祝スルト同時ニ卿カ訓示スルトコロアラントス  
抑モ今テ回派遣ノ主トセル目的ハ帝國ヲ代表シテ英國皇帝  
皇后兩陛下ノ御盛典ヲ祝シ絶大ノ敬禮ヲ彼ノ皇室ニ  
表スルニ在リ諸子ハ宜シク上旨ヲ奉戴シテ參列ノ禮意  
ヲ表示スルニ欽クルトコロナカルヘキハ言フヲ待タス又此行ハ大ハ  
一艦ノ行動ヨリ小ハ一卒ノ動作ニ至ル迄皆是レ帝國海軍  
ノ代表トシテ列國ノ環視ヲ受クヘク且ツ我國勢力ノ増進ニ伴  
ヒ曩ニハ我ヲ輕視セルモノモ今テヤ嫉視シテ我武力ノ伸否  
如何ヲ知ランコトニ務カル際諸子ノ一舉一動ハ直チニ我海  
軍ノ精否ヲ推断スルノ標準ナルヘキヲ銘記シ層一層  
慎重ノ行動ヲ取ランコトヲ希ス

右ハ一昨七日海軍大臣カ親シテ本旗艦淺間ニ臨ミ本職及兩  
艦長以下ノ諸官ニ訓誨セラレタル大意ニシテ角田常備艦隊

0031

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

司令長官ノ本職ノ訓示セラレタルトコロモ亦以ノ意ニ外ナラス諸子  
ト共ニ眷々服膺スヘキトコロナリ

思フニ諸子カ今因<sup>レ</sup>派遣ノ榮ヲ蒙リシハ必スヤ各自ノ体力及技能ノ  
勝ルモノアルニ因<sup>レ</sup>ハ勿論ナルモ亦其以上ノ期待セラルトコロアルヘキトコ  
留意セサルヘカラス諸子ハ其任務ノ重ナルヲ思ヒ又其ノ光榮ノ  
大ナルニ鑒ミ彼ニ對スルニ率直真執手ノ精神ヲ以テ最モ其廣  
作進退ヲ謹ミ飽マテ我海軍々人ノ名譽ヲ發揚スルヲ務ムヘ  
ク又下士卒一般ニ向ワテモ充分ノ興ノ意ヲ體セシメムコト本職ノ特  
ニ希望スル所ナリ殊ニ又今因<sup>レ</sup>列國海軍ノ情況ヲ觀察スルニ逸  
スヘカラス好機ナルヲ以テ諸子ハ興ノ時ヲ利用シテ出來得ル限リ  
視察シ遂ニ以テ我海軍ニ裨益スル所アルヘシ

從來帝國ノ軍艦ニシテ海外ニ航スルモノ多クモ因<sup>レ</sup>航若クハ單ニ  
練習ヲ目的トスル遠洋航海ニ過キス特別ノ任務ヲ以テ歐洲ニ

赴んてハ實ニ軍艦清輝ノ一アルミニシテ今回ノ如ク精銳ナルニ  
艦ヲ以テ然カモ一艦隊ヲ組織シテ派遣セシムラタルハ誠ニ空前  
ノ事ナリトス吾人職ヲ以テ艦隊ヲ奉スルモノ其ノ名譽言實ニ大ナリ  
ト云フヘシ諸子ハ宜シク航行中ニ有スル訓練上ノ便宜ヲ利用シテ各  
種ノ操練日常ノ行動作業等ニ至ル迄一層モ精練ノ域ニ達シ  
シメ外ニ對シテハ我海軍ノ威ヲ示シ列國ヲレテ畏敬ノ念ヲ起サ  
シムル同時ニ歸朝ノ日ハ又我海軍中ノ儀表トナリテ派遣艦隊ノ  
名譽ヲ永遠ニ發揚スヘキコトヲ期スヘシ  
終ニ臨ミ一昨日海軍大臣カ退艦ニ際シ重テ本職ニ告ケラレタ  
ルコトヲ茲ニ諸子ニ傳ヘ以テ座右ノ誡トセト欲ス曰ク  
今回日英協約成ルニ至リタルハ我國諸般ノ事物一般ニ  
長大ニノ進歩ヲ為シ我國國家ノ實力カ之ヲ值スルニ至  
リタル結果ト為サシムラ得スト由ニ特ニ本明治二十七八

年並に昨三十二年に於て我海陸軍ノ成文カノ也ト貢獻  
スルトコト多大ナリト疑フヘカラスルトコトニテ其ノ點ハ就テハ  
我海軍ノ為メ祝賀至リニ堪ヘサルナリ然レモ若シ我海  
軍々人ニシテ苟モコノ小成ニ驕慢ノ念慮ヲ生スルコ  
トアラシ乎勿心ニシテ全軍ノ士氣衰ヘ技術退歩シ終  
用フヘカラスルに至ルヘキハ又殆ント疑ヒシ容レサルトコトナリ  
一千八百七十年佛國ノ敗ヲ蒙レルカ如キハ實ハ其適例  
ニシテ吾人ノ共ニ寒心スヘキトコトナリス故ニ我軍人タルモノ  
益ニ彼優渥ナル勅語ノ旨ヲ奉戴シ決シテ今日ノ  
程度ニ甘シセス益ニ精神技術ノ修養ニ奴カメ以テ他  
日吾人ノ頭上ニ落ケ来ラントスル更ニ大ナル凶徒求ニ應ス  
ルノ覺悟ナカルヘカラスト

明治三十五年四月九日土佐沖航行中旗艦浅間  
常備艦隊司令官伊集院五郎

0035

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

午后五時都井崎油樓ヲ航過シ天氣驟變ノ間ヒ其ノ信號シヨリ低  
氣壓ノ九州西部ノ沖ニ存在スルヲ知ル是ニ於テ大隅海峡ヨリ南西諸  
島ノ北側ヲ航過シ台湾海峡ニ向フ筈ナリシモ豫定ヲ変更シ直ぐニ  
南下シ南西諸島及台湾ノ東側ヲ通過スルニ決スコレ兩艦特ニ高  
砂ノ航海更ニ艱難ナラシメテ慮リタレハナリ又速カク減シテ十節トナス  
望樓ヲ介シテ左ノ意味ナル電報ヲ特命檢閲使伊東大將及常  
備艦隊司令長官ニ致シ別意ヲ述フ

豫定通過ノ會合ハ能ハス甚タ遺憾ナリ遂ニ健康ヲ祈ル

是レ本艦隊ハ本日午後此望樓附近ニテ常備艦隊主力ト相  
會シ敬意ヲ致シヨトヲ期シタリシモ艦隊主力ハ午之別士時ヲ以テ  
已ニ當岬ヲ通過シ西向ニ去リ終ニ相及フコト能ハザリシヲ以テナリ

四月十日(木)

朝七時風浪高砂左舷(風上)舷側ノ石灰積込口ヲ犯シ海水浸入ス

十六

0036

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

コト六噸許直々ニ停止シテ修理ス午後風浪烈シク高砂機関  
空廻リシタス以テ速カヲ節シテ九節トナス

四月十一日(金)

速カヲ十節トナス

四月十二日(土)

午后の時三十分熱帯ニ入ル

本日ヨリ午後一時辰整合ノ為メ空放ヲ免スルヲ止メ只時辰整合

旗ニシテ用ユ

四月十三日(日)

午前十一時三十分台湾南岬沖ヲ航過シ万國船舶信跡ヲオス  
為メ三海里ニ近ゾテ空放ヲ免シ漸クニ着岸人ノ注意ヲ引キ付  
ケレモ彼終ニ我信跡ヲ慮セス而シテ風浪暴カリシテ以テ我モ長  
クコトニ止ル能ハズ終ニ遺憾ナカラセテ中止シテ南向ス其ノ本艦

ヨリナセシ信號ハ次、如ト意味ナリシ

コノ信號ヲ東京海軍省ニ電報アリタシ

「我々ハ無事此地ヲ過ク左様ナラレ」

四月十四日(月)

雲散雨止シ暑者威頸ニ加ル後夏服ヲ着用ス

氣候急変シ時辰亦本邦ト異ナリ通商日課ニハ諸事不都合ナルヲ以テ左ノ通り適宜日課ヲ斟酌ス

一、総員起シヨリ午前止業迄ノ日課施行時刻各十五分ニ繰下ク

二、初夜巡檢ヲ午後七時半トス

三、左ノ件ヲ航海中ニ限り特ニ認許ス

イ 昼夜共夏服着用ノ件但シ下士ニハ総員事業服ノ子  
ロ 准士官以上適宜ノ夏帽ヲ使用ルコト又夏服肩章

七七

0038

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

ヲ使用セサルヲ得ル事

ハ下士十制規之依ラシム夏禱祥ヲ用テシ得ル事

又碇泊中准士官ヲシテ日中ニ限リ後甲板當直シ爲シ主トシテ  
後甲板船門辺ノ片附方ト取次出迎ノ勤務等ヲ監督セシムル  
コトハセリ

舟前土時英國フリバポールノ帆船レスミアカワスルノ桑港ニ向ッ  
ラ諾ハ午後砲艦一隻ノ北西ニ向ヒ我針路ヲ横切ルヲ認ム然レ  
ニ彼軍艦旗ヲ揚ケケルヲ以テ其ノ何國ノモノナルヤシ知ルニ由ナカリ  
キ蓋米ノ四式砲艦ナラン歎

本邦出發以來連日風浪ノ難アリ又降雨連続タリシカ本日  
始メテ快晴トナリ風浪亦稍平カナリ依テ弱者救助操練シ  
行ヒ端舟ヲ卸ロシシテ機トシテ兩艦公文書ヲ交換ス

四月十九日(火)

四月十六日(水)

午前八時半停止多量ノ率ニ高砂ニ轉乘將旗ヲ移シ艦内  
巡檢ヲおシ午后再ニ停止淺間ニ歸ル

高砂艦内ニ名(機関兵)ノ熱射病患者ヲ生ス然レ何レ輕症  
ニシテ漸次快方ニ向ヒウアリ

四月十七日(木)

午後二時頃太陽ノ直下ヲ過ク

四月十八日(金)

四月十九日(土)

午後一時アナムハ島ノ西方ニ至リ列ヲ解キ各艦各自ニ回  
針儀ヲ修整シ午後五時再ヒ列ヲ成シ新嘉坡ニ向フ

十八

0040

四月二十日(日)

午前九時三十分新嘉坡入港軍艦錨地に碇泊ス  
在泊軍艦

英砲艦

*Porpoise*

魚目義勇艦隊サラトフ

英國之對シニ十一発ノ礼砲ヲ放ス

本邦出發以來毎日正午旗艦ノ位置及西艦ノ使用速力消費后  
山反里ハ左表ノ如シ

日	緯度北	經度東	航程	使用速力	石炭消費 高	高砂
八日	三三度二六分	一三六度一二分	二四三	一一	九〇	四七
九日	三一度四一分	一三二度八分	二七三	一二	九五	五六

計												
二十日	新嘉坡											
十九日	三度二六分	一度五度四分	二六〇	一〇	七〇	四〇						
十八日	七度三分	一度六度四分	二六一	一〇	七八	四三						
十七日	一〇度三分	一度四一分	二五五	一〇	七五	三九						
十六日	一三度三分	一度三度三分	二四九	一〇	七五	三九						
十五日	一五度三分	一度七度一分	二五四	一〇	七五	四一						
十四日	一八度三分	二度六分	二三〇	一〇	七六	三九						
十三日	二一度五分	二度四五分	二二三	一〇	七〇	三九						
十二日	二三度三分	二度四度三分	二三〇	一〇	七七	四一						
十一日	二五度五分	二度七度五分	一九二	九	七三	四〇						
十日	二九度八分	一度三度三分	二二五	一〇	八五	四八						

十九

0042

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

日曜ノ故ノ以テ英國方答砲大ニ遅延シ午後一時至リ「フォートカニンガム」ヨリ二十發ノ答砲アリ之ニ次テ英國巡洋艦「ファイアレス」ヨリ特旗ニ對スル十三發ノ礼砲アリ直キニモ之ニ答砲ス此日午前英國艦長 *Commanser John Graham* 来リ語テ曰ク先ニ其國軍艦日曜日午前ニ入港シ来リ恰モ礼拝時ニ際シ陸上砲台ト礼砲ヲ交換シ一時宗教家ノ話頭ト上リシコトアリ之ヲ以テ本日ハ且テ人々ノ感觸ヲ害ハサレカホム午後一時迄陸上ヨリ答砲ヲ延引スナラシム時刻ニ至リ右答砲了ラバ五口亦直キニ礼砲ヲ發セント欲スト言語頗ル陳辯的ニシテ吾感情ヲ害ハサレカホム其行動ノ内命ヲ侵ケ来ルカヲ思ハシメタリ

本邦領事久水三郎来禮礼砲七發ヲ發シ後領事禮也兵隊ヲ伴ヒ総監督ヲ官舎ニシテ守備隊自人砲兵五十名一樽校之ヲ指揮シ本職ヲ「ジョニスト」埠頭ニ迎ヘ捧銃敬礼ヲ行ヒ

今時之砲台より十三発ノ礼砲ヲ発ス總督 *Sir Frank* *Viser*  
*Thank you* ハ其副官ヲ伴ヒ本職以下ト會見セリ

總督官舎より暫クテ「パールヒル」ノ陸兵本部ニ至リ守備隊長  
代理某と面シ其人今朝副官ヲ送リタル旨ヲ謝シ更ニ領事  
館及英艦「フアイアレフス」艦長ヲ塔訪ス

守備隊長代理ハ今朝我入港後直ニ其ノ副官ヲ送リ何時來訪  
スルヲ最も便宜トスヘキヤヲ尋ネ我ニシテ便宜上本職先ヲ往訪  
ス（キヲ通シ置ルニヤリ）

午後一時より高砂「タンジョン」ハガア「埠頭」ニ横付ニ石炭搭載  
ヲナシ午後九時半五百三十噸ヲ補充シ終ル

在古倫母三々禮也早崎大佐ヨリノ電報ニ接シ今税ノ二十音  
古倫母ヲ發スルヲ知ル依テ左ノ返電ヲ發シ洋上相會セト期ス

*Expect meeting you soon 26 South of*

rickshaw  
四月二十一日(月)

早朝高砂軍艦錨地ニ復歸シ淺岡エニ代リヲタレヨシバカール  
ニ横付シ石炭補充シ午前十時半七百七十三噸ヲ取リ入レ  
終ル

海軍省發三笠古倫母發期日ノ電報ヲ受領ス  
夕刻久米領事本職以下二十名ヲ招待シ領事館ニ小會  
ヲ張ル

四月二十二日(火)

午三時方時淺岡軍艦錨地ニ復歸ス  
正午總督來艦ス退艦之際ニ十七發ノ礼砲ヲ打ス  
午後八時兩參謀長副長高砂禮長ヲ伴ヒ  
總督官舎ニ於テ晚餐會ニ臨ム

本職明二十三日午前十時吉備母<sup>と</sup>向<sup>け</sup>出發せし<sup>と</sup>スル<sup>こ</sup>  
臨<sup>し</sup>艦内一統無恙<sup>の</sup>返<sup>の</sup>茅<sup>の</sup>一回報告ヲ呈出スル<sup>ヲ</sup>  
得<sup>ハ</sup>大<sup>に</sup>愉快トスル所ナリ

明治三十五年四月二十二日於新加坡禧街<sup>の</sup>前  
常備艦隊司令官伊集院五郎

0046